

## 令和5年度事業報告書

## 第1 清掃

## 1 施設

## (1) 船舶

船名	総トン数	主機関	速力	乗組員	集積能力	形式	備考
清港丸	19.0t	ディーゼル 345 <sup>PS</sup> ×2基	10.0kt	3名	20m <sup>3</sup>	ディーゼルターボ式	名古屋港管理組合 から無償借受け
あゆち	14.0t	ディーゼル 130 <sup>PS</sup> ×2基	7.0kt	3名	12m <sup>3</sup>	ディーゼルターボ式	
きよかわ	4.9t	ディーゼル 112.8 <sup>PS</sup> ×1基	8.5kt	3名	3m <sup>3</sup>	曳舟兼清掃船	
塵芥運搬船	—	無動力	—	—	30m <sup>3</sup>	—	

## (2) 土地および建物

用途	所在地	土地面積	建物面積	備考
事務所及び船舶基地	港区作倉町1番95号	984.95 m <sup>2</sup>	175.52 m <sup>2</sup>	名古屋港管理組合から無償借受け
作倉作業基地	港区作倉町101番	991.48 m <sup>2</sup>		// (含護岸敷)
中川作業所	中川運河南幹線11号地以南	159.48 m <sup>2</sup>		// (土地)

## (3) 起重機

種別	形式	設置場所	用途	備考
1.0 t	デリッククレーン	中川作業所	塵芥陸揚げ用	名古屋港管理組合から無償借受け
2.8 t	ジブクレーン	作倉作業基地	//	//

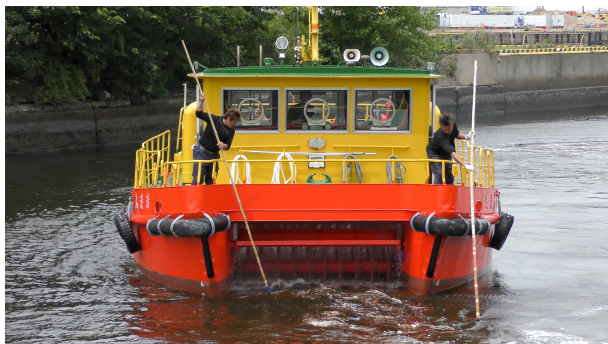
## 2 人員

職名	副会長兼 常務理事	事務局長	事務員	班長	副班長	作業員	計	備考
人数	1名	1名	2名(※)	1名	1名	1名	7名	※ 大型漂流物除去等事業と兼務

3 作業内容

(1) 区域別形態

清掃区域	使用船舶	作業員数	基地	搬出処理作業	搬出先
港内	清港丸	3名	作倉作業基地	可燃ごみについては、基地（作業所）に据え付けたクレーンと名古屋市から配車するトラック、および本会が借上げたトラックを使用して処理を行う。 可燃ごみ以外の産業廃棄物については、収集運搬・処分を産業廃棄物処理業者に委託する。	名古屋市五条川工場 および 産業廃棄物処理業者が 所有する工場
	あゆち	3名			
堀川	きよかわ （塵芥運搬船）	3名	作倉作業基地 ／ 中川作業所		
新堀川					
中川運河	きよかわ （塵芥運搬船）	3名			



▲ 海の清掃船「清港丸」



▲ 川の清掃船「きよかわ」

ア 作業予定表に従って、悪天候や土日祝日を除いて毎日、清掃船「清港丸」および「あゆち」による名古屋構内の巡回清掃を実施した。

特に、ガーデンふ頭は名古屋港の表玄関として多数の来港者があるため、春から秋にかけて船溜りを重点的に清掃した。

6月2日、台風2号の接近に伴い線状降水帯が発生した。これにより、猛烈な雨が降り、大量のごみが海に流れ込んだ。その月のごみの回収量は、417㎡にも上った。

8月15日には、台風7号が和歌山県に上陸し、愛知県を接近通過した。この台風により、強い雨が降ったものの、ごみの流入には大きな影響は見られなかった。

イ 作業予定表に基づき、清掃船「きよかわ」による堀川、新堀川、および中川運河の適宜清掃を行った。

中川運河については、必要に応じて全域にわたって清掃を実施し、特に松重ポンプ所および中川口ポンプ所付近に汚物や塵芥が集積するため、月平均4回清掃を行った。

また、中川口通船門の閘室を中心に発生した浮遊死魚の処理も実施した。処理実績については、『6ページ（3）浮遊死魚処理』に記載している。

ウ 主な塵芥の種類は、流木（小）、木片、竹、葦、パレット、発泡スチロール、プラスチック容器、ビニール製品、ガラス瓶、ペットボトル、缶、紙屑、および家庭廃品類等がある。

(2) 流出油処理

本会に係る令和5年度の流出油処理件数は0件であった。

4 塵芥別処理実績

(1) 清掃区域別処理実績

内訳 月別	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考		
	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )			
令和5年	4	20	38.0	9	9.5	4	2.0	15	7.5	2	1.0	3	3.0	53	61.0		
	5	18	37.0	11	21.5	3	1.5	15	7.5	2	1.0	3	3.5	52	72.0		
	6	21	357.0	7	49.5	2	1.0	9	5.0	1	0.5	4	4.0	44	417.0		
	7	19	98.5	8	39.0	0	0.0	11	6.0	2	1.5	4	4.0	44	149.0	死魚 5,000匹	
	8	19	80.0	4	5.0	7	22.0	13	7.5	2	1.0	5	8.0	50	123.5	死魚 1,800匹	
	9	20	99.0	9	34.0	4	31.5	11	6.0	2	1.0	4	4.0	50	175.5		
	10	20	26.5	18	31.0	1	0.5	12	6.0	2	1.0	4	4.0	57	69.0		
	11	16	11.5	13	17.0	1	0.5	9	5.0	2	1.0	5	5.5	46	40.5		
	12	20	22.5	13	16.5	1	1.0	14	8.5	2	1.0	3	3.0	53	52.5		
	令和6年	1	17	27.0	15	41.5	2	1.0	12	6.5	2	1.0	3	3.0	51	80.0	
	2	18	63.0	12	33.5	1	0.5	11	5.5	2	1.0	4	4.0	48	107.5		
	3	19	83.0	13	27.5	1	1.0	13	7.5	2	1.0	5	5.0	53	125.0		
計	227	943.0	132	325.5	27	62.5	145	78.5	23	12.0	47	51.0	601	1,472.5	死魚 6,800匹		

◆ 年度別実績

内訳 年度別	内 港		南 部		西 部		堀 川		新 堀 川		中 川 運 河		計		備 考
	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	回数	塵芥(m <sup>3</sup> )	
// 18	289	1,162.5	171	550.0	61	67.5	112	170.0	11	6.0	18	47.0	662	2,003.0	死魚 15,982匹
// 19	277	658.5	145	465.5	7	8.0	117	132.0	5	2.5	16	31.5	567	1,298.0	死魚 129,580匹
// 20	269	1,348.0	133	529.5	5	12.0	118	120.0	12	6.5	17	41.0	554	2,057.0	死魚 8,020匹
// 21	256	1,571.2	123	580.5	21	42.0	129	133.5	21	12.5	23	52.0	573	2,391.7	死魚 265,800匹
// 22	295	1,285.5	144	443.5	39	77.5	174	196.0	18	12.5	23	62.5	693	2,077.5	死魚 679,350匹
// 23	268	1,513.5	140	694.5	30	67.5	166	153.5	22	13.5	22	51.0	648	2,493.5	死魚 896,900匹
// 24	277	1,171.5	160	436.5	15	19.0	166	197.5	23	13.0	24	70.5	665	1,908.0	死魚 56,340匹
// 25	265	1,564.0	95	349.5	19	15.5	159	186.0	17	9.0	24	58.0	579	2,182.0	死魚 254,600匹
// 26	230	992.5	75	456.0	12	32.5	168	179.5	17	8.5	29	50.5	531	1,719.5	死魚 61,200匹
// 27	185	572.5	61	225.5	16	21.0	157	137.5	24	13.6	29	45.0	472	1,015.1	死魚 824,480匹
// 28	212	1,824.0	67	358.5	15	22.5	143	114.5	19	10.0	20	38.5	476	2,368.0	死魚 992,000匹
// 29	224	2,353.0	91	365.5	17	17.0	104	98.0	15	8.0	44	83.0	495	2,924.5	死魚 1,384,766匹
// 30	216	1,008.0	92	310.5	33	34.5	147	114.0	13	7.5	49	85.0	550	1,559.5	死魚 180,000匹
令和 元	212	1,127.0	106	310.0	36	31.5	128	95.0	20	10.0	42	72.0	544	1,645.5	死魚 20,700匹
// 2	215	1,512.0	119	264.5	37	20.0	160	138.0	20	10.5	48	65.5	599	2,010.5	死魚 198,760匹
// 3	209	1,659.0	117	288.5	56	51.5	135	118.0	21	10.5	41	53.0	579	2,180.5	死魚 25,000匹
// 4	218	774.0	139	291.5	50	26.5	163	163.0	22	11.5	50	64.0	642	1,330.5	死魚 123,550匹
// 5	227	943.0	132	325.5	27	62.5	145	78.5	23	12.0	47	51.0	601	1,472.5	死魚 6,800匹

(2) 河川大清掃

令和5年10月17日から10月25日まで河川大清掃を実施した。実績は以下のとおりである。

◆ 河川大清掃実績表

年月日	種 別	河 川 名	出 動 人 員 お よ び 船 舶			塵 芥	区 間
			清港会	木材業者	船 舶		
5年 10月17日	(火)	堀 川	3人	4人	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	松重橋 ~ 尾頭橋
10月18日	(水)	//	3人	—	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	尾頭橋 ~ 瓶屋橋
10月19日	(木)	//	3人	—	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	巾下橋 ~ 松重橋
10月20日	(金)	中川運河	3人	—	1隻	1.0 m <sup>3</sup>	堀 止 ~ 中川閘門
10月23日	(月)	堀 川	3人	—	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	瓶屋橋 ~ 大瀬子橋
10月24日	(火)	//	3人	—	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	大瀬子橋 ~ 堀川水門
10月25日	(水)	新堀川	3人	—	1隻	0.5 m <sup>3</sup>	堀 留 ~ 内田橋
合 計			21人	4人	7隻	4.0 m <sup>3</sup>	

(3) 浮遊死魚処理

浮遊死魚を発見後、清掃船を急行させ、迅速に処理作業を行った。処理実績は次のとおりである。

年月日	種別	作業船舶	人員	処理量	種類	作業時間	場所
5年 7月4日		清港丸	2人	3,000匹	コノシロ	13:15~14:45	中川運河 中川閘室
	7月5日	きよかわ	2人	2,000匹	コノシロ	9:00~10:10	中川運河 中川閘室
	8月14日	清港丸	2人	1,000匹	コノシロ	8:45~9:45	中川運河 中川閘室
	//	清港丸	2人	800匹	コノシロ	13:30~14:15	中川運河 中川閘室
合計			8人	6,800匹		4時間25分	

5 啓発宣伝活動

(1) 6月6日(火)、名古屋市港区の南陽小学校の5年生に向けて、海ごみ問題についての出前講座を開催した。この講座では、清掃活動の内容や海洋ごみの影響を詳しく説明し、児童と一緒に海ごみの発生原因と対策について考えることを目的としている。

当日は、2021年に海と日本プロジェクトと協力して作成した海洋ごみ問題の啓発動画を上映し、その深刻さと、一人ひとりができる具体的な対策について紹介した。さらに、海のごみが生物に与える影響などについて、クイズ形式で出題した。また、実際に清掃作業で回収した買い物カゴを見せ、波や岸壁に擦られてマイクロプラスチックになっていく様子を実物で実感してもらった。

参加した児童からは、ごみの量や種類についての質問が相次ぎ、熱心に講座に参加している様子が伺えた。今後も地域の小学校を訪れ、海洋ごみの軽減に向けた啓発活動を行っていく。



▲ クイズの問題に積極的に手を挙げる小学生たち



▲ 海で回収した摩耗した買い物カゴを見せる様子

(2) 名古屋市は、5月下旬から6月上旬の2週間で「環境学習ウィーク・トライ&アクション」と位置づけ、名古屋市立の小・中・特別支援学校全てで環境学習プログラムを実施している。この取り組みの一環として6月21日、名古屋市立東築地小学校の3年生約40名を清港会の作業現場に招き、「海のそうじ屋さん見学会」を開催した。

生徒たちは、作倉作業基地を訪れ、清掃作業の実演を見学した。また、海洋ごみが船舶の航行や生物に与える影響について、パネルなどで説明を受けた。

この見学会は平成19年度から続いており、今年で15回目の開催となる(ただし、令和2年と3年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。)

この見学会を通じて、参加した生徒たちは、海洋ごみの深刻さを実感し、環境保護の大切さについて理解を深めた。また、日ごろ目にする事の少ない清掃作業の現場を見学することで、海洋保護に向けた具体的な取り組みの一端を学ぶことができた。



▲ 熱心にメモを取る小学生たち



▲ 迫力溢れる清掃作業に、歓声が湧き上がった

(3) 7月4日から28日までの約1ヶ月間、名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」にて、海洋ごみをメインテーマにしたマンスリー企画展示に出展した。

マンスリー企画展示とは、身近な環境から地球環境まで、楽しみながら幅広く学べる、名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」にて、環境保全活動や環境メッセージなどの情報を発信する場として毎月様々な企画が展示されているもの。

今回の展示では、名古屋港に流れ着くごみの発生源や、海の生態系や人々の生活に及ぼす影響などを、イラストや写真、動画で解説。さらに、清港会が実際に回収した海洋プラスチックごみの展示や、本会の清掃船による海や河川の清掃活動の取り組みについても併せて紹介した。

海洋ごみ問題の深刻な現状と、その原因や影響、清港会の取り組みについて理解を深めてもらうものとなった。



▲ 展示室の一角にマンスリー企画展示がある



▲ マイクロプラスチック化したごみの展示

(4) 9月16日(土)、久屋大通公園で開催された「環境デーなごや2023」に7回目の出展を行った。清港会のブースでは、「名古屋港と川をごみから守ろう」をテーマに、海洋ごみが環境に及ぼす影響について動画とパネルで詳しく説明。さらに、来場者を対象にした環境クイズも実施し、正解者には記念品としてオリジナルのボールペンやエコバッグを粗品としてプレゼントするなど、参加型のイベントとなった。

当日は、9月中旬にもかかわらず、最高気温が35度を超えるなど異例の猛暑日となったが、それでも100名を超える多くの来場者が清港会のブースを訪れた。



▲ 環境クイズに答える様子



▲ 清港会がデザインしたボールペンとエコバッグ

- (5) 10月12日(木)、名古屋港管理組合が主催するみなと体験ツアーが開催された。このツアーでは、地域産業や暮らしを支える名古屋港を船に乗って見学することができる。  
参加者は、港務艇「ぽーとおぶなごや2」に乗船し、名古屋港を巡った。この日は、「環境・景観コース」として、港の環境を守る船として「清港丸」が紹介され、注目を集めた。また、「ぽーとおぶなごや2」の船内に、実際に「清港丸」が回収した海洋ごみの一部が展示されており、参加者からは海洋ごみの深刻な現状に驚きの声が上がっていた。
- (6) 清港会の「あらまし」およびリーフレット「海のおそうじやさん」を、各関係機関および一般市民に配布し、環境啓発に努めた。
- (7) 各清掃船に「港や川をきれいにしましょう」というプレートを常時取り付け、港湾利用者らに対して港湾美化を呼びかけた。
- (8) 6月の海洋環境保全推進月間中、南極観測船「ふじ」や船だまりに「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、啓発活動を行った。また、10月1日(日)に開催された名古屋レガッタに合わせ、中川運河沿いに横断幕を掲げ、港内美化を呼びかけた。
- (9) 10月17日(火)から25日(水)まで、名古屋港管理組合、名古屋市、および堀川、新堀川、中川運河沿線の木材業者の協力を得て、名古屋水上交通組合と共催で恒例の河川大清掃が実施された。初日には名古屋木材会館で河川大清掃出発式が行われた。  
この期間中、船に「港や川をきれいにしましょう」の横断幕を掲げ、堀川、新堀川、中川運河において、港や川の汚染防止を呼びかけた。
- (10) 名古屋港水族館の南館3階には、海の環境問題をメインテーマとした「エコ・アクアリウム」が常設展示されている。日本初の水族館での常設の環境教育ルームで、海洋プラスチックごみの生物や海洋環境への影響を中心に、パネルや大型モニタ、顕微鏡を使って分かりやすく解説している。  
この展示の一角で、昨年度に引き続き、清港会の活動が紹介されている。清掃船「清港丸」で実際に回収された海洋プラスチックごみの展示や、清掃活動の様子を収めた動画、パネル展示が行われている。  
展示場では、マイクロプラスチックのサンプルとその影響を解説する資料も並び、海洋汚染の深刻さと対策の重要性を来場者に訴えている。

第2 大型漂流物除去等

1 令和5年度の大型漂流物除去については、昨年度と同じく名古屋港管理組合からの委託を受け、名古屋港港湾区域内（河川区域を除く）を作業船により、悪天候を除くほぼ毎日巡回して、航行船舶の障害となる大型漂流物の収集作業を行った。緊急の場合は携帯電話で対応した。

収集した大型漂流物のうち、流木は、新宝ふ頭に設置してある「アバ」内に集積し、6月14日、9月9日、3月23日に陸揚げ作業を実施し、乾燥後、3月23日に処分（チップ化）を行った。それ以外の収集した大型漂流物については、作倉基地に集積し、適宜、産業廃棄物処理業者に収集運搬・処分を委託した。

なお、家電については、家電リサイクル法に基づき適切に処理された。



▲ 新宝ふ頭「アバ」 流木集積



▲ 陸揚げし乾燥後に運搬処分

2 主な大型漂流物の種類は、丸太、角材、板、沈廃船（ボート）、ドラム缶、プロパンボンベ、ビニールシート、タイヤ、冷蔵庫、洗濯機、ベッドマット、ふとん、タンス類、自転車、バイク等である。

3 本年度は、沈廃船を産業廃棄物として、3隻処理した。



▲ タイヤなど



▲ 沈廃船3隻

4 使用船舶

船名	総 吨 数	主 機 関	速 力	作 業 員	備 考
そうかい	7.9ト	ディーゼル320PS×1基	15.7ノット	3名	名古屋港管理組合から無償借受け

5 土地

用途	所在地	土地面積	備考
港内における大型漂流物陸揚げ処理のため	東海市新宝町 25-1	1,390.76 m <sup>2</sup>	名古屋港管理組合から無償借受け

6 人員

職名	事務員	作業員	計	備考
人数	2名(※)	1名	4名	※ 清掃事業と兼務

7 大型漂流物陸揚げ処理および沈廃船処理実績

地区別	大型漂流物陸揚げ処理		沈廃船処理	備考
	陸揚げ	処理		
件数	3回	1回	3隻	

8 収集および陸揚げ実績

種類 月別	丸太		角材		板		船材	木工品	工業品	その他	陸揚げ処理量(t)		
	2m未満	2m以上	2m未満	2m以上	2m未満	2m以上	沈船および廃船等	パレット,ベニヤ,木片および箱等	タイヤ,ドラム,プロパンボンバ等	竹材,ロープ,ビニールト,菰等			
R5年	4	26	20	13	11	2	3	0	47	4	32	5.07	
	5	33	32	13	5	4	6	4	65	2	44		
	6	55	157	10	14	4	7	0	241	13	297		
	7	67	43	5	3	1	2	0	99	1	55		
	8	89	59	6	0	0	5	0	122	1	63		
	9	111	70	13	7	4	4	0	129	10	73		8.88
	10	68	23	15	4	11	9	0	72	2	40		
	11	20	8	7	5	16	2	0	14	1	14		
R6年	12	11	6	14	0	4	3	0	24	3	30	11.79	
	1	36	9	12	4	11	6	1	22	0	29		
	2	14	12	6	1	5	4	0	42	0	23		
	3	19	9	8	1	3	10	1	50	0	27		
計	本 549	本 448	本 122	本 55	枚 65	枚 61	隻 6	個 927	個 37	個 727	t 25.74		

※ 陸揚げ処理量(t)は、新宝ふ頭に設置してある「アバ」内の大型漂流物(流木)を陸揚げし、乾燥後に搬出処分(チップ化)した処理量である。